

# Alert 43号

[通巻 425 号]  
2020年  
1月 14日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

野次馬日誌 \* 9 集会の真相 \* 10 反天日誌 \* 12 集会情報 \* 12

マスコミじかけの天皇制 **42** ○「即位・大嘗祭違憲訴訟」高裁（第一次提訴）なんと「差

し戻し」判決を勝ち取る！

——（壊滅天皇制・象徴天皇教国家）批判 その7—— 天野恵一 \* 8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく **115**  
●「ゴーン騒動から何を読み取るか」—— 太田昌国 \* 7

ねつとわーく ● 香港デモ 21世紀の自由と民主主義 —— 陳孤独 \* 6

反天ジャーナル ● 映女、京極紀子、井上森 \* 3  
状況批評 ● ナショナリズム煽動の先兵役 —— 皇室祭祀詳説の代替わり報道 ● 中嶋啓明 \* 4

今日の Alert ○「さあ、戦争だ」「皇位継承問題だ」か？—— 私たちの言論闘争も開始だ！ \* 2



250 円

映画『山谷——やられたらやりかえせ』が最初に上映されたのが1985年の12月。それからもう35年が経っているけど、ぼくらがしつこく上映を続けているのは、このドキュメンタリーが写し出している問題がなにひとつ解決していないからだ。

ぼくらは昨年あたりから、〈映画を、聞く〉という新企画を立てている。あらためて映画の内容を見直し、この映画と対話するためである。その第1回目は、日雇労働者の失業保険といつてもいい「白手帳」、2回目は「越冬闘争」を選んだ。どちらも下層労働者にとっては「生き抜いていく」ために必要な制度であり、これ以上退くことの出来ない闘いである。そういう意味で、下層の「死を拒否する闘い」として外せない問題がある。映画の後半部、筑豊シーンに繰り込まれている「強制連行」の歴史だ。

このところ「徴用工」をめぐって国家が出しゃばってうるさい。なぜ個人の補償に国家が手出しをしなくてはならないのか。血債は必ず償還されねばならない。それだけのことではないか。むろん「徴用」と「徴兵」は一体のもので、「徴兵」が使い捨て兵士を前線に置くように、使い捨て労務者を産業の基幹部分に配置するのが「徴用」の本質だ。国家が責任を負うのはその部分だ。そしてそれは、なにも「戦時」に限ったことではなくて、ぼくらに言わせれば、寄せ場をはじめとした日雇下層、非正規労働者、外国人労働者たちの存在と続く、現在ただいまの問題である。

というわけで、映画『山谷——やられたらやりかえせ』は、いまも怒りでいっぱいだ。人を数量で見ようとする社会に徹底的に反抗していく「文化の運動」としても、上映運動は続く。けっしてあきらめない。今年もヨロシク、ね。

(池内文平)

- 定期購読をお願いします（送料共年間4000円）
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス  
東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス  
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の  
*Alert*

# 「さあ、戦争だ」「皇位継承問題だ」か? —私たちの言論闘争も開始だ!



あつという間の年越しだった。二〇一九年、反天連は、終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（おわてんねうど）の仲間たちと走り続けた。二〇一八年未にバタバタと提訴した即位・大嘗祭違憲訴訟にも、反天連事務局メンバーはそれぞれ原告や訴訟の会の事務局として裁判を共にしてきた。また、同様に反天連も参加するオリンピック災害おことわり連絡会（おことわリンク）の一年前企画をはさんだ企画も多く忙しかった。そのほか各メンバーがそれぞれに関わる活動も少なくなく、反天連全体が文字通り怒涛の日々であった。例年の12・23集会はなくなり、一二月は少しはゆったりするのかと思つていたがそういうわけにもいかず、12・7集会でおわてんねつとはひと段落したものの、「集会の真相」参照)、今年の2・11反「紀元節」行動実の準備や即大訴訟の口頭弁論(「集会の真相」参照)と、年末まで走り続けた。

政府の動きはさらに慌ただしく、「代替わり」行事のすべてが終わつたかと思うタイミングで出てきたのは、一二月二七日の「自衛隊の中東派遣閣議決定」の報だ。派兵根拠は防衛省設置法の「調査・研究」というが、米国と、米国が求めていた「有志連合」へのエクスキューズ的な派遣であることは、新聞等でも明確に示唆している。「調査・研究」は防衛相の命令だけで実施可能であり、

あつという間の年越しだった。二〇一九年、反天連は、終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（おわてんねうど）の仲間たちと走り続けた。二〇一八年未にバタバタと提訴した即位・大嘗祭違憲訴訟にも、反天連事務局メンバーはそれぞれ原告や訴訟の会の事務局として裁判を共にしてきた。また、同様に反天連も参加するオリンピック災害おことわり連絡会（おことわリンク）の一年前企画をはさんだ企画もなく忙しかった。そのほか各メンバーがそれぞれに関わる活動も少なくなく、反天連全体が文字通り怒涛の日々であった。例年の12・23集会はなくなり、一二月は少しはゆったりするのかと思つていたがそういうわけにもいかず、12・7集会でおわてんねつとはひと段落したものの、「集会の真相」参照)、今年の2・11反「紀元節」行動実の準備や即大訴訟の口頭弁論(「集会の真相」参照)と、年末まで走り続けた。

政府の動きはさらに慌ただしく、「代替わり」行事のすべてが終わつたかと思うタイミングで出てきたのは、一二月二七日の「自衛隊の中東派遣閣議決定」の報だ。派兵根拠は防衛省設置法の「調査・研究」というが、米国と、米国が求めていた「有志連合」へのエクスキューズ的な派遣であることは、新聞等でも明確に示唆している。「調査・研究」は防衛相の命令だけで実施可能であり、

お手軽に派兵できる根拠法である。なんと年、反天連は、終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（おわてんねうど）の仲間たちと走り続けた。二〇一八年未にバタバタと提訴した即位・大嘗祭違憲訴訟にも、反天連事務局メンバーはそれぞれ原告や訴訟の会の事務局として裁判を共にしてきた。また、同様に反天連も参加するオリンピック災害おことわり連絡会（おことわリンク）の一年前企画をはさんだ企画もなく忙しかった。そのほか各メンバーがそれぞれに関わる活動も少なくなく、反天連全体が文字通り怒涛の日々であった。例年の12・23集会はなくなり、一二月は少しはゆったりするのかと思つていたがそういうわけにもいかず、12・7集会でおわてんねつとはひと段落したものの、「集会の真相」参照)、今年の2・11反「紀元節」行動実の準備や即大訴訟の口頭弁論(「集会の真相」参照)と、年末まで走り続けた。

その新天皇の一般参賀は参加者七万弱。決して多い数とは思わないが、それでもそんなどに行くのかと、正月早々采れ果てる。早朝から並んだといふ家族連れなどインタビューム像が流されていて、「平和を祈つてほしい」だの「自然災害のない一年を祈つてほしい」だの、これは初詣のかわりだなと思いつつ、天皇は祈る相手ではなく祈る人として認識されているのだなあ、と妙に納得する。まさに祭祀王であり、参加者はみなその信者ということになる。

この天皇の「代替わり」の最終的な儀式として考へられているのが、四月一九日に予定されている「立皇嗣の礼」だ。天皇の弟・秋篠宮が立皇嗣（皇位継承順位一位であること）を宣言するという儀式で、国の主催で行うが、儀式の概要については今月中に決めるという。そしてこれが終了したらいよいよ「皇位継承者」問題の検討を始めること特例法には付帯決議として、「本法施行後速やかに」皇位継承問題の検討に入ることが書かれているが、安倍はそれを後へ後へと延ばしてきた。しかし、そろそろ始めるわけにはいかない。

今年の反天皇制運動の大きな柱の一つは、この「皇位継承」問題をめぐる言論による戦いとなることは間違いない。これまで何度もなされてきた議論である。そして私たちはもちろん「誰がなろうと天皇はいる」だ。しかし、なぜその結論にならぬのかを多くの人たちと共有できなければ、結論は空論だ。女性天皇容認が八〇%以上という世論の中で、「女性天皇も女系天皇も女性宮家もいる」の根拠を、どれくらいの人たちと共有できるのか。反天皇制運動の正念場であるとも思つ。今年も頑張りたい。

まずは2・11反「紀元節」行動と2・23おわてんねつと集会だ（インフォメーション欄、チラシ参照）。たくさんの参加を待つてます。今年もよろしく！

(大子)

## 英ハリー王子、王室離脱？

### 復興五輪の嘘に騙されない

### 政治的なことは個人的なこと？

英エリザベス女王の孫ハリー王子がこのほど、王室からの自立を目指し、年の半分は妻が育つたカナダで暮らす計画をしているとを発表しました。同時に王室の仕事を減らすと。彼は、メディア嫌いでも知られ、執拗な取材攻勢にメディアを訴えています。何しろ、母ダイアナ妃がパパラッチの取材攻勢の末、事故死という悲劇に見舞われた事件のトラウマがなお残っていると。妻のメーガンさんは、母親がアフリカ系米人であり、離婚歴もあり、女優であったことなどから、結婚後も、マスクの注目を浴びていました。生まれた息子ともども、平穏な生活を送りたい、ということらしい。ところが、今回の発表は、女王などの事前相談もない、一方的なものでした。

驚いたのは女王と父の皇太子。それでなくとも、英王室はこのままのまま。少女貴春パーティを行っていた疑いで逮捕、獄中自殺をした、トランプ大統領のお友達エヴァ琳と仲良しで、そのパーティにも出ており、当時未成年の少女と性関係を持った、とも告発されています。ア王子は、チャールズ皇太子に諭され、BBCに出演したものの、それが何とも評判が悪い。EU離脱も決まり、英国はいよいよ瓦解？

(映女)

英エリザベス女王の孫ハリー王子がこのほど、王室からの自立を目指し、年の半分は妻が育つたカナダで暮らす計画をしているとを発表しました。同時に王室の仕事を減らすと。彼は、メディア嫌いでも知られ、執拗な取材攻勢にメディアを訴えています。何しろ、母ダイアナ妃がパパラッチの取材攻勢の末、事故死という悲劇に見舞われた事件のトラウマがなお残っていると。妻のメーガンさんは、母親がアフリカ系米人であり、離婚歴もあり、女優であったことなどから、結婚後も、マスクの注目を浴びていました。生まれた息子ともども、平穏な生活を送りたい、ということらしい。ところが、今回の発表は、女王などの事前相談もない、一方的なものでした。

驚いたのは女王と父の皇太子。それでなくとも、英王室はこのままのまま。少女貴春パーティを行っていた疑いで逮捕、獄中自殺をした、トランプ大統領のお友達エヴァ琳と仲良しで、そのパーティにも出ており、当時未成年の少女と性関係を持った、とも告発されています。ア王子は、チャールズ皇太子に諭され、BBCに出演したものの、それが何とも評判が悪い。EU離脱も決まり、英国はいよいよ瓦解？

(映女)

五輪イヤー。私たちにとつては返上まで200日のカウントダウンが始まった。で、年明けの4日～5日、福島へ。3月26日から始まる聖火リレーのコースを駆け足で回った。スタートは「ピレット」。原発事故の対応拠点だったが、昨年春全面再開。出発地の9番ピッチは人工芝で輝いていた。

昨年一〇月、国際環境NGO・グリーンピースは高濃度の放射線量を周辺で測定、再度の除染が行われたばかりだ。そこから、なでしこジャパンの選手・監督22人が走り出す。未だ不通の常磐線も3・14に再開（富岡～浪江間20・8K）、直前3・4・5日に各駅周辺の避難指示を先行解除、復興拠点として再び人が住める街を目指す計画だとう。町丸」と帰還困難区域の双葉町も一部解除、全て「3・26」にあわせたアリバイ作りだ。帰還困難区域を通過する国道6号線の両側は無人の町が続いている。

地元紙に載った高校生らの座談会には「「コロが痛んだ。廃炉に向けた技術や雇用を「未来の力に」と眞面目に語る彼・彼女らだが、いつしょ」「回ったいわきの友人は、「最先端の技術はまさに」応用可能な軍事技術の実験場」と真逆の解釈だ。高校生らと議論し共有できる思想を持つるかどうか、私たちも試される。

(京極紀子)

反天



ジャーナル

怒濤の二〇一九年が終わった。数えてみたら、おわてんねっと主催の行動は救援会合わせて一年で一五回位あった。そりゃ大変なわけだ。覚えてるのは4・30や11・14に右翼や警察の前に飛び出るドキドキとか、地裁前で抗議中ふと横見ると、皇居が見えた興奮とか。面はもとより線すら怪しぐ、点で闘うときが一番生き生きするのであった。でもこのことは書いておきたい。共働きで小学生の子どもがいる身としては、通常運転ですら忙しいテント村に加えての反天は、いささか荷が重かった。家での「任務」はしなしてるつもりでも、頭の片隅ではいつも、原稿の構想やら氣の利いたマイクやら。スマホ片手のTwitter戦闘を家中に持ち込んだのもひどくますかつた。都心の会議を終えた夜半の帰り道、背中には「個人的なことは政治的なこと」というあの警句がぴったりと貼りつき……。

戯れに「政治的なことは個人的なこと」とひつくり返して呟いてみてもひとり。

いや、こと反天に関してはそれはあながちミスリードではないかも。とか、なんとか。多摩川のほとりでしばし立て直して、またうつてですます！(井上森 立川テント村)

# 状況 批評

思想・状況・批評

## ナショナリズム煽動の先兵役

皇室祭祀詳説の代替わり報道

中嶋啓明（人権と報道・連絡会）

秋篠宮の「立皇嗣の礼」とやらが四月に残されているが、昨年一年をかけて大騒ぎした、連の代替わり儀式が、ひとまず終わった。年が明け、国際社会で新天皇にスポットを当てる次の披露目の場として、メディアは総力をあげて東京五輪の宣伝に躍起になつていて。イランに対するアメリカの戦争脅迫に追随し、自衛隊の中東派遣でトランプにシップを振る安倍政権下の日本社会は、胸抜けた「平和ボケ」顔をさらしながらメディアの煽動に乗つて踊つていて。

### 後退した「表現の自由」と批判意識

『日本経済新聞』は、一月一六日、大嘗祭の終了を受けた社説で、述べていて、「夜から未明にかけ、一般的の目に触れない密室での儀式に、多額の国費が費やされる」とには各層にさまざまな意見がある。／政府が「公的性格」を強調するのであれば、儀式の内容やその意義、予算の使い道などについて、わかりやすく情報を公開すべきではないだろうか。」

一連の代替わり儀式では、いつも以上にオベンチャラ報道が乱舞した。それには右も左も、保守反動モリベラルも違ひはない。

三〇年前の「平成」への代替わり時も同様だった。

だが、昔の新聞記事を少し見返してみても、当時は今回ほど、元号や儀式を事細かに報じてはいなかつたように思う。

メディアは今回、大嘗祭の歴史を詳しく振り返り（「大嘗祭ひもじけば／昭和の際に「秘儀」説も・飛鳥時代、中国文化に対抗し誕生？」（『朝日』一月八日朝刊）など）、カラーをふんだんに使ったイメージ図「古来の秘事、厳かに／国民の安寧祈る」（『毎日』一月一三日朝刊）で式の次第を詳細に解説した。

あるいは、「元号總覽」と掲げ、「大化」以来のすべての元号を紙面一面使ってズラズラと並べた（『東京』四月一日朝刊）。

私が所属する「人権と報道・連絡会」は、二月二八日、「表現の自由とマスメディア」をテーマにシンポジウムを開いた。シンポでは、名古屋で昨年、開かれた「表現の不

自由展・その後」で実行委員会メンバーを務めた小倉利丸さんが、「一時開催中止を強いた、連の代替わり儀式が、ひとまず終わった。年が明け、国際社会で新天皇にスポットを当てる次の披露目の場として、メディアは総力をあげて東京五輪の宣伝に躍起になつていて。イランに対するアメリカの戦争脅迫に追随し、自衛隊の中東派遣でトランプにシップを振る安倍政権下の日本社会は、胸抜けた「平和ボケ」顔をさらしながらメディアの煽動に乗つて踊つていて。

「秋の収穫を祝う素朴な農民文化が源流とされる『秘事』が爾々と続いた」（「闇の中秘事観」（『毎日』一月一五日朝刊）と報じる雑観を読んでも、「帳舎」では儀式の流れがほとんどつかめないため、トイレに立つ人が増えた。午後八時を回ると、「陛下はおこなうるんですか」などと私語を始める人、タバコを吸いに外に出る人、さりには大あくびをしたり、こっくり、こっくりと居眠りをする人も」と伝えていた九〇年一月一三日の同紙と比べ、批判意識が低下しているように感じてならない。

今回のメディアの代替わり報道で、天皇制の「存在意義」があらためて民衆の脳髄に深く刷り込まれたことは間違いない。

「儀式の内容やその意義、予算の使い道など」について情報公開を要求するメディアの報道は、「そうした取り組みを通じ、国民と皇室の絆が強まり、両者の距離が縮まる」とを祈（前掲「日経」社説）つての「」すぎない。

月刊誌「世界」の一月号で、京都大学人科学研究所教授の高木博志が「近代天皇制と『史実と神話』」と題して書いている。

高木は、百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録で、代表する古墳の呼称を「大山古墳」との併記でなく「仁德天皇陵」に一本化したことなど、「史実と神話」の曖昧化が、様々な局面で起きていると指摘。「天照大神以来の『万世一系』の天皇制の『血統』を視覚化し、国民に軟らかく確認させる大嘗祭・親謁の儀などの代替わり儀式も、そつである」として、「史実と神話」の曖昧化は、普遍性のない内向きのナショナリ

ズムをもたらす」と警告を発している。

皇室祭祀の「希少性」を言い募つて日本の特殊さを自賛し、日本民衆のナショナリズムを大々的に煽動する。一連の代替わり儀式の意義と目的が、そうしたところにあつたのは間違いない。メディアはその先兵としての役割を忠実に果たした。

そんな中、一〇月二一日の『産経』に載つたある論説が目を引いた。

「共産党は憲法を守れ」。論説副委員長の榎原智による「一筆多論」だ。いつから『産経』は護憲派になつたのかと驚きながら、一応目を通してみた。「国民主権」原則に基づき代替わり儀式を批判する共産党を揶揄したものだ。いわく――、「天皇が憲法第1章に置かれているのは、天皇が日本の國の始まりから一貫して國の首座にいらした日本の歴史、國柄に基つく。」憲法第1条で天皇の地位が「國民の総意に基つく」とあるのは、それゆえだ。たまたま今、生きている國民の多数決に基づくものではなく、過去、現在、未來の國民の総意の規定だとといえるべきだ。(略)立憲君主である天皇が、憲法に同居する國民と矛盾されるわけもない。臣下の筆頭である内閣總理大臣が即位される天皇陛下に対して、「万歳を三唱するのは自然な」とだ。／憲法の英訳は「constitution」だが、これは國柄、國体とも訳される。共産党は、憲法は國柄を踏まえて解釈すべきだといつ常識を身につけ、現憲法を守つてもよいしたい。

右翼側にも、なかなか「アタマのいい」人がいるものだ。「一般意思」とやうの彼らなりの解釈か。憲法や法律も我田引水。右翼側も「理論武装」に必死なのだ。こうしたじご都合主義解釈が、右翼内だけにとどまらず、そのうち一般メディアにも滲出していくのでほど危惧する。

## 〔万世一系〕もスキャンダルも

ネット上では昨年、愛子が天皇になり、女優の芦田愛菜が首相になる二〇年後の未来を描いた小説が話題になつたりし。『毎日新聞』の一月四日朝刊で、編集委員兼論説委員の伊藤智永が紹介している。伊藤は「日本初の女性首相は案外、女性天皇誕生を待つてようやく実現するのかもしれない」とまで言つ。なんともはやだ。

メディアは今あらためて、女性天皇論議の再燃に火をつけようと躍起だ。近現代の天皇制は当初から、イギリスをはじめヨーロッパの王室をモデルにしてきた。グローバリズムの進展に伴い、明仁、美智子天皇制下で、そうした動きはさらに加速した。そのヨーロッパでは各國王室が次々に、王位の女性継承原則を導入していく。メディアでさまざまに言われるようじ、明仁、美智子をはじめ、徳仁、雅子らも、

女性天皇や女系天皇の容認を入れてゐるのかもしけない。

一方で、日本の天皇制が、自らを神の末裔と妄想する万世一系のフイクションを捨て去ることができないのも事実だ。万世一系神話から切り離されでは、自らの「權威」の正統性を担保することができなくなるのだ。だから、万世一系神話を支えてくれる神道主義右翼勢力を見捨てるわけにいかない。

明仁、美智子らが、グローバリゼーションに対応して、リベラル、左翼に支持基盤のウイングを広げることができたのも、安倍晋三首相がしっかりと、神道主義右翼への目配りを欠かさないようにしたからだ。明仁、美智子天皇制と安倍政権との関係は持ちつ持たれつ。単なる役割分担にすぎない。

徳仁、雅子が天皇位、皇后位につくと、手のひらを反すように徳仁、雅子へのヨイショ記事が横行し、それと引き換へ、秋篠宮「家」に対する非難、誹謗、揶揄や、明仁、美智子への批判が噴出してくる。秋篠宮「家」の長女眞子の結婚を巡るスキャンダルに見られるように。

天皇、皇后へのあからさまな批判はできない。特に「今上」天皇に対しては。だが、それ以外の皇族が、批判、場合によつては誹謗され、貶められることは、ヨーロッパ型王室を模範にする天皇制にとっては必要悪なのだ。ネット社会では、そうした動きを止めることはできない。それどころか、スキャンダルにさらわれることは、天皇制の「寛容さ」を誇示するいい材料になる。

半面、大嘗祭の簡素化を諷う秋篠宮が「大嘗祭自体は絶対にすべきもの」とぐざを刺したように、天皇、皇族は皇室祭祀を無視するわけには絶対にいかない。神の末裔としてのアイデンティティを、神道主義右翼はもちろん民衆に、目に見える形で示すためだ。

## 神社本庁の足下ゆうべ

業界誌『選択』の一月号に、神道政治連盟（神政連）の影響力が低下してゐると指摘する記事が載つていて。バリバリの極右安倍が首相を務める政権下で「なぜ」のような事態になつたのか」と疑問を呈してゐるのだ。

後継者不足や氏子の減少による経済的困窮、神社本庁の支配に抵抗して各地の傘下神社から上がる不満、反発の動き等々、神道主義右翼勢力は今、その足下に見過ごすことのできない揺ぎを抱えているようだ。

その一方で、明治神宮や伊勢神宮など大手神社が、パワースポット・ブームに便乗し、かつてない参拝客の増加で隆盛を誇っているのも事実だ。

天皇制再編の行方を占いつて、注目したい。

## 香港デモ：21世紀の自由と民主主義

陳孤獨（#FIGHT FOR HONGKONG@2019）

一二月一九日、新宿アルタ前から「香港に自由を！」連帶行動」のデモが出発。一〇月に続いて二度目の香港連帶デモだ。参加者は一回目よりは少なく五〇人程度だったが、コースは新宿通りと靖国通りの一周年なので大変目立つ。黄色いヘルメット姿の勇武派スタイルも定着した。六月から続く民主化デモへの連帶だ。応援してくれる歩行者もチラホラいる。デモは香港の民主化だけではなく、中国の民主化、沖縄の自決権、日本の変革も訴える。自由と民主主義に国境も民族もない。すべてひとつながりだ。

香港のデモは半年以上続いている。逮捕者はすでに六〇〇〇人を超えて、最長一〇年の刑期が課される暴動罪容疑での逮捕者も一〇〇〇人を超える。その多くが一〇代以下の若者。中には小学生もいる。「五〇年はそのままの制度だ」と「一国二制度を中国政府が約束した香港返還から二一年。英植民地時代の「自由はあるが民主はない」という状況は好転するどころかますます後退している。若者には二八年後のゴールが見えているのだろう。運動が始まつてから一度ほど香港を訪れたが、そこで交流した青年たちは一様に「いま鬪わなければ未来はない」と囁く。

平和的なデモに参加する一〇〇万の市民と武

装して警察と対峙する数千の勇武派の協力が今回の運動の特徴だと言われる。実際にはそれほど美しいものでもないことは、#FIGHT FOR HONGKONG@2019のグループが一二月に招聘した香港の新田アクトティビリストの一一致した考えだ。普通選挙の実施を訴えた二〇一四年雨傘運動での既成民主派に対する新興の本土派（香港ナショナリスト）の批判は、非暴力主義の既成民主派を乗り越えようとして一揆的蜂起主義に走り、大弾圧を受けた。本土派の主張には中国人に対するヘイトも含まれている。対立する相手を差別や暴力で圧倒しようとするやり方は、運動の後退期に内部へ向かう。運動内部における民主主義の貫徹と差別の排除は決定的に重要である。「絶対に過ちを犯さない指導部」ではなく、指導部の過ちを民主的に修正するとのできる仕組みこそが重要だ。そういう意味においては「指導者のない運動」といわれる香港の運動もさまざまなかつや失敗、試行錯誤を繰り返しながらも前進しているように思う。二〇一九世代の柔軟な思考とSNSなど新しいマーケティングツールを用いたスタイルが効果を發揮してくる。

その一方で、普通選挙の実現といつも一世紀では当たり前の、しかしその歴史を振り返ると熾烈な闘

争によって実現された（あるいはされなかつた）ことを考えると、香港の若者たちの運動は遙かな长征の端緒に就いたばかりだと言わざるを得ない。とりわけ対峙するのが、かの巨龍ともなれば尚のこと。しかし巨龍も安泰ではない。グローバル資本主義のジャングルでの熾烈な生存競争だけでなく、みずから内部に民族抑圧と資本の搾取に喘ぐ巨大なマグマを抱えてもいる。「自由を」「民主主義を」と叫ぶ香港青年の声は繰り返し巨龍の鱗に突撃する。魯迅が「呐喊」の序で述べた「鉄の部屋」のよつに。警察と衝突する勇武派だけではない。授業のはじまる前や放課後に、学校や地域を巨大なヒューマンチェーンでつなぐ中高生たちは今後の香港民主化運動の中核となるだらう。ぜひ中国国内にもチエーンをつなげてほしい。三罷ストの敗北を経て新しく登場しつつある青年たちによる新労組結成の動きも注目だ。「香港に栄光あれ」という歌声のなかで確立した香港人アイデンティティは、自由と民主主義その価値観のど真ん中に据えている。植民地主義の遺産と資本主義の負債との根本的な闘いは、實際にはすでに直面しているにもかかわらず、主体の形成といつもからむ、もう少し先の課題になるだらう。国際的な陰謀渦巻く香港情勢を正しくといえるには民主主義的価値観が重要だ。民主主義は選挙／被選挙権だけにとどまらない。職場における労働者の権利確立をこえて、気候変動の主因である商品生産と賃労働の廃止、そして生産そのものを生産者自身のコントロールに置く社会への展望など、二一世紀の自由と民主主義にふさわしい。

太田昌嗣の夢は夜ひらく 115

みたび

「アルシリ・アシ」が支配する社会にあっても、彼らなりの最上の規範と論理ならびに倫理によって律せられているあり方は、地域と時代によつてはあり得たし、今後もあり得よう。だが、二一世紀もすでに一〇〇年を経た現在を生きる私たちの観点からすると、それはどこに実在する「夢物語」なのかと思えてくる。

ンの「非合法的」な出国事件を取り上げよう。日本の司法の在り方に関わっての（ただ一つこの件に関わっての）彼の問題提起には、司法に関わる人びとはもちろん社会の基盤を構成する私たち自身が再考し、正すべき論点が含まれている。だが、ここはそれを詳論する場ではない。冒頭に書いた問題意識に準えるなら、ブルジョアジーのためとあれば、彼ら自身がいかなる超規範的・超法規的な「管理秩序」でも設定するもののなのだとつくづく思われるるのは、いわゆ

の従来の利用方法にある。今回なされている報道には、にわかには信じがたい内容が多くあるが、もっとも驚くべきは、P・Jの離発着と通関に関するそれである。私たちが通常、国際便は

ノによって〈見事な〉までに利用されたのである。日本の政界、司法界、メディア言論人の間に沸き起こっているゴーンに対する一斉非難の様子を見て、いる私には、それが、さながら、富裕層のみが享受できる特権的な権益を擁護しようとすると、者同士の間で起ころうとしている「内ゲバ」に過ぎないと考えてくる。その双方をして「内ゲバ」の中で自滅させよ。

現首相は「日本を一企業がもつとも活動しない」国にするとの趣旨のことを幾度となく語ってきたが、まさに大企業のトップなどが使うビジネスジェットについて、政府は手続きの簡素化など利便性の向上に取り掛かってきた。国土交通省は日本の競争力強化や経済成長を目的として、民主党政権時代の一〇一〇年に検討会を設置し、受け入れ態勢の整備を行なったうえで、発着制限の緩和、専用施設の整備（現在は、羽田、成田、中部、関西の四空港）、出入国手続の簡素化および時間短縮などの優遇策を実施してきた。現首相の方針の下で、それは勢いを増し、国内空港での発着回数は、一〇一〇年の一万一〇〇〇回から二〇一八年は一万六〇〇〇回へと、およそ一・五倍に増加している。

今回のゴーン騒動を、拠るべき規範も倫理も喪失したブルジョアジーの〈現在〉を照らし出す出来事として総体的に把握すること。その先には、森友、加計、政権周辺の犯罪者の擁護、観桜会、自衛隊の中東派兵など、ブルジョア政治の腐朽性がすべて浮かび上がってくる。

(1月11日記)

「即位・大嘗祭違憲訴訟」高裁（第一次提訴）なんと「差し戻し」判決を勝ち取る！

〈壞憲天皇制・象徴天皇教國家〉批判 その7

天野恵一

一二月七日「終わりにしよう天皇制!『代替わり』反対ネットワーク」の最後の街頭デモへ向けて、自分たちの活動の軌跡を確認するスライド（説明つき）、コント（大嘗祭をパロったもの）、歌踊りなどががつめこまれた「大集会」が持たれた。この長い闘いの中で、みな達者になっていた。

一二月一四日、「即位・大嘗祭違憲訴訟」の第一次提訴分の「差し止め訴訟」の判決。訴えを受け止める態度がほとんど見えなかつた裁判長の「却下」しか予測しなかつた私たちの前で「地裁ノ却下判決ヲ破棄スル」と宣告。傍聴席からはトンチンカンな「抗議」の声が飛んだ。弁護士とともに原告席にいた私も、何かの聞き間違いではないかとしばらく啞然。これは「ヤツタ！」と反応すべきだったと気づくのに時間がかかつた。

すぎない。実は、前回の一九九〇年からの大阪での「即位の礼・大嘗祭違憲訴訟」にも参加している。それも運動上の義理だった。「この時の高裁判決」、政府の唱える「天皇教」による「宗教の自由の侵害」という判断が明示された。「これも内容的には画期的なものであった。これの記録は『天皇制に挑んだ一七〇〇人』(けん訴訟団編著、緑風出版一九九五年)として出版されており、私の、日本の貧乏人を代表して巨額の税金のムダ遣いを告発しているが」とき「弁論」もそこに収められている。このときも、消極的参加者としてはとてもラッキーだった。

今回は、象徴天皇規定のある憲法の土俵の上で、「人権」対「天皇制」という論理が、どこまでつめることができるかキチンと考えてみる。そういう

今回は、象徴天皇規定のある憲法の土俵の上で、「人権」対「天皇制」という論理が、どこまでつめることができるかキチンと考えてみる。そういう課題を自分に設定して「意見」をまとめた。さて、「破棄判決」の論理をここで紹介しよう。

一一月二六日、私は高裁で第一回の口頭弁論を原告の一人として読み上げていた。「控訴人」としての「意見陳述」したのは私一人だけ。そして一回だけで結審の結論（判決）がそれであつた。形式的に言えば、私の弁論への判決がこれである（もちろん実質的に私の弁論以前に、裁判官は）、

した半湯を浴みていたのが幸運だ  
ラッキーな体験であった。

私は、象徴天皇規定がトップにある憲法下での天皇制をめぐる「違憲訴訟」に積極的に取り組む意欲はあまりなかった。今回も、熱心にやっていく仲間への義理のみが動機の原告参加であつた。

今回は、象徴天皇規定のある憲法の土俵の上で、「人権」対「天皇制」という論理が、どうまでつめることができるかキチンと考えてみる。そういう課題を自分に設定して「意見」をまとめた。さて、「破棄判決」の論理をいじり紹介しよう。

民事訴訟法第一四〇条には、二つある。「訴えが不適法でその不備を補正することができないときは、裁判所は、口頭弁論を経ないで、判決で、訴えを却下することができる」。

ついては何ら判断しない」となく、補正の余地がないとして控訴入らの訴えを却下したものと言わざるを得ない。

民訴法第三〇六条「第一審の判決の手続が法律に違反したときは、控訴裁判所は、第一審判決を取り消さなければならぬ」に基づいて、原審を「取り消す」というわけだ（傍線引用者）。

私は、大阪のときと逆に、納税（金）の問題などにふれずに、人権一本で「意見」をまとめてよ

いとして控訴入らの訴えを却下したものと言わざるを得ない」。

民訴法第三〇六条「第一審の判決の手続が法律に違反したときは、控訴裁判所は、第一審判決を取り消さなければならない」に基づいて、原審を「取り消す」というわけだ（傍線引用者）。

私は、大阪のときと逆に、納税（金）の問題などにふれずに、人権一本で「意見」をまとめてよかつた、などと一人で勝手に納得。

そんなことはともかく、天皇裁判など許さじといふ政治主義司法の内側から、手続き無視の「門前払い」はいくらなんでもその声が飛び出したという事実には、注目すべきである。

かつた、などと一人で勝手に納得。  
そんなことはともかく、天皇裁判など許さじといふ政治主義司法の内側から、手続き無視の「門前払い」はつづらなんでもの声が飛び出したという事実には、注目すべきである。

野次黙日誌

12月1日～12月29日

〔12月1日〕  
天皇、皇族◆愛子が、明仁、美智子に18歳の誕生日を報告するため、吹上仙洞御所を訪問。赤坂御所に戻り、徳仁、雅子と一緒に宮内庁長官や職員からの祝賀を受ける。

◆「立皇嗣の礼」◆政府が4月19日の儀式「立皇嗣の礼」の形式や規模について、「平成」への代替わりの際に行われた「立太子の礼」を踏襲する方向で調整に入った。海外からは「賓客」を呼びず、国内にいざなう大使うを招く方針。

**12月3日**

明仁、美智子◆アフガニスタンで殺害された医師中村哲の遺族に対し、宮内庁を通じて弔意を伝えた。信子◆故寛仁の妻信子が、静岡市の複合施設で開かれた第22回全国農業担い手サミットの開会式に出席。

【12月5日】  
12月7日

徳仁◆東京都新宿区のホテルで開かれた日本山岳会の夕食会に出席。「私の」な活動として参加。

明仁、美智子◆アフガニスタンで殺害された医師中村哲の遺族に対し、宮内庁を通じて弔意を伝えた。信子◆故寛仁の妻信子が、静岡市の複合施設で開かれた第2回全国農業担い手サミットの開会式に出席。

り、天皇一家と共に夕食。  
**大嘗宮**◆大嘗宮の建材の大部を、バイオマス発電の燃料として活用する方針。建築資材としての再利用は困難と判断、資源の有効利用のため発電に充てることにし、建材以外の砂利や柴垣などは、皇居や赤坂御用地などで活用する。  
**皇位繼承策**◆麻生太郎・副総理兼財務相が10日発売の月刊誌「文芸春秋」のインタビューで、安定的な皇位繼承策として

り、天皇一家と共に夕食。  
大嘗宮◆大嘗宮の建材の大部を、バイ  
オマス発電の燃料として活用する方針。  
建築資材としての再利用は困難と判断、  
資源の有効利用のため発電に充てること  
にし、建材以外の砂利や柴垣などは、皇  
居や赤坂御用地などで活用する。  
皇位繼承策◆麻生太郎・副総理兼財務相  
が10日発売の月刊誌「文芸春秋」のイン  
タビュールで、安定的な皇位繼承策として  
旧宮家（旧皇族）の皇籍復帰を提案。

秋篠宮、紀子◆第43回全国育樹祭の式典出席などのため、民間機で沖縄入り。糸満市の国立沖縄戦没者墓苑を訪れ、納骨堂に献花。同市の沖縄県平和創造の森公園を訪問。1993年の全国植樹祭で明仁、美智子が苗木を植えたりュウキュウマツの枝打ちをする。

のうち、剣と璽（勾玉）を携えた侍従が随行。5月以来続いた一連の即位関連儀式を終えたと報道。秋篠宮・紀子の皇族や、安倍晋三首相ら三権の長や閣僚が賀所前で頭を下げる。

子や眞子、佳子ら皇族、親族らが集まる祝宴の場が設けられる。吹上仙洞御所で明仁、美智子にあいさつ。赤坂御所で侍従職の祝賀に応じた後、愛子と悠仁の「祝い」を受ける。夜、赤坂御所に明仁、美智子や秋篠宮一家、黒田清子夫妻が集ま

「今年の漢字」◆「令和」の「令」に決まり、日本漢字能力検定協会が、京都市東山区の清水寺で発表。  
「12月13日」

た。徳仁と共に皇居・宮殿で、宮内庁の山本信一郎長官ら幹部職員や、安倍晋二首相と閣僚らからそれぞれ祝賀を受ける。丁寧に「おめでとう」、火祭御前、己酉の年、癸卯の年などと、丁寧に言ふ。丁寧に「おめでとう」、火祭御前、己酉の年、癸卯の年などと、丁寧に言ふ。

「立皇嗣の礼」◆政府が皇位継承に関する式典委員会を開き、4月10日の儀式「立皇嗣の礼」の次第や関連行事の詳細について述べた。

正天皇陵を参拝。  
赤坂離宮◆正月三が日は、徳仁即位に伴  
う慶祝行事の一環として、庭園（本館・  
別館は除く）が無料で公開されるほか、  
「祝賀御列の儀」で乗ったオープントンカーや、  
1月5日まで展示。

**佳子、悠仁◆渋谷の国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた「第41回少年の主張全国大会」に臨席。秋恒例の乾通りの一般公開も終わり、約18日間で約7万2千人が訪れた。**

リティー上映会に出席し、「ディズニー映画「アナと雪の女王2」」を鑑賞。掌典職◆皇室の祭祀をつかさどる掌典職のトップ、楠本祐一・掌典長が退任する人事が発令される。後任は空席で、掌典次長が代行する。

宣野湾市で開催された第43回全国育樹祭式典に出席し、秋篠宮があいさつ。  
**[12月16日]**  
**「十大ニュース** ◆ 「社会部長が選ぶ今年の十大ニュース」(新聞之新聞社主催)の選考会が、通信8社の社会部長らが出席して東京都内で開かれ、1位に「天皇陛下

天皇、皇族◆徳仁、雅子が皇居・宮中三殿の「賢所」で、即位の礼や「大嘗祭」が終わったことに感謝し、神樂を奉納する「賢所御神樂の儀」に臨む。「三種の神器

天皇、皇族◆雅子が56歳の誕生日を迎えて、宮内庁を通じて文書による感想を発表し、38万一千人が訪れた。

瑠子◆故寛仁の次女瑠子が、ニャンマーへの「私的旅行」のため、成田発の民間機で出発。

下が即位。「令和」に改元」を選ば。  
**12月17日**

大阪市入り。

眞子、佳子◆千葉県市川市の宮内庁新浜鴨場で、駐日外国大使夫妻らに伝統の力士を紹介する恒例行事に接待役として参加。

**宮内庁長官◆**宮内庁長官の認証式が皇居・宮殿で開かれ、西村泰彦次長が長官に就任。2016年9月から長官を務め、天皇代替わりに関する儀式を取り仕切った山本信一郎が退任。

歳出で、皇室して19億円をうち、住まい洞御所（現ま設置工事など費に8億円、賞宮」の取り2億円を計上

関連は代替わり関連費用と計上した。代替わり関連の改修で東京・赤坂の「仙台坂御所」へのエレベーターに7億円、秋篠宮邸の改修立皇嗣の礼は4千万円、「大壊し後の敷地の原状回復に

提供すると案内状に記載し、あらかじめ「同意を得ている」と述べ、前提が異なるとの見解を示す。

からすなわち駄目だ、という議論にはあまり賛同していない」。

**【12月18日】**  
**徳仁、雅子、愛子◆東京都港区のニッショーホールを訪れ、アニメ映画「」の世界の(そのにいくつもの)片隅に」のチャリティー試写会に出席し、作品を鑑賞。**

代替わり◆「高御座」の一般公開が22日から東京・上野の東京国立博物館で始まるのを前に報道陣に公開される。隣に「御帳台」が並び、別の展示室で、「即位礼正殿の儀」で使用した太刀や弓などの道具、装束を着た人形を同時に展示。

〔12月26日〕  
徳仁、雅子◆10月の台風1号などで大きな被害を受けた宮城県丸森町と福島県木賊町が、復旧工事の進捗状況を報告する会見を開いた。この会見は、内閣官房の官邸で開かれた。内閣官房の宮内庁が、作業風景を報道陣に公開。

**新年一般参賀◆宮内庁が翌年1月2日に行われる「令和」初の新年一般参賀に明仁・美智子が参加すると発表。**  
**「内奏」◆安倍晋三首相が、皇居で「内奏」。**  
**【12月28日】**

**[12月19日]** **徳仁、雅子◆**10月の台風19号などで大きな被害を受けた12都県に、見舞金を贈る。  
**[12月20日]** **天皇、皇族◆徳仁、雅子**が、訪日しているウズベキスタンのミルジヨエフ大統領夫妻を皇居・宮殿に招き、会見。会見後、宮殿で昼食会が開かれ、秋篠宮、紀子ら皇族が出席。

代替わり◆「高御座」の一般公開が22日から東京・上野の東京国立博物館で始まるのを前に報道陣に公開される。隣に「御帳台」が並び、別の展示室で、「即位礼正殿の儀」で使用した太刀や弓などの道具、装束を着た人形を同時に展示。

【12月22日】

天皇、皇族◆明仁が86歳の誕生日を迎え、徳仁・雅子や秋篠宮・紀子ら皇族が皇居を訪れ、明仁・美智子に祝意を伝える。

【12月24日】

園遊会◆菅義偉・官房長官が記者会見で、首相主催の「桜を見る会」の招待者名簿を開示できないとする理由について「公示する前提で招待していない」。招待者名簿を公開している天皇、皇后「主催」の

「12月26日」  
宮内庁が、作業風景を報道陣に公開。  
**徳仁・雅子◆**10月の台風19号などで大きな被害を受けた宮城県丸森町と福島県木宮市を日帰りで訪れ、被災者を見舞う。阿武隈川支流が氾濫した五福合地区を訪れ、家が土砂にのみ込まれた状況を視察。仮設住宅に移動し、被災者らと約30分間懇談。へりに乗り、本宮市に移動。避難所だつた市の保健福祉施設「えぼか」で被災者らと懇談。

**皇位継承策◆**自民党の石破茂・元幹事長が、TBSのCS番組収録で、安定的な皇位継承策に関し、女系天皇の容認を排

新年一般参賀◆宮内庁が翌年1月2日に行われる「令和」初の新年一般参賀に明仁・美智子が参加すると発表。  
【内奏】◆安倍晋三首相が、皇居で「内奏」。  
【12月28日】  
元号◆政府が4月1日の新元号発表9日前の時点で、候補名考案を嘱託していた中西進・元大阪女子大学長（日本古典）に現存する日本最古の歌集「万葉集」限定で元号案作成を依頼していた。

【12月29日】

天皇、皇族◆25歳の誕生日を迎えた佳子が、徳仁・雅子にあいさつするため、赤坂御所（東京・元赤坂）を訪問。明仁・美智子の住まいの皇居・吹上仙洞御所を訪れる。悠仁が同行。

漢書

二〇一九年の「代替わり」反対を闘い抜いた「終わりにしよう天皇制！ 代替わり」反対ネットワーク（おわてんねつ）は、一二月七日、千駄ヶ谷区民会館で「終わりにしよう天皇制2019.12.7 大集会&デモ」をもった。おわてんねつ

伴う集会である。

二〇一九年の「代替わり」反対を闘い抜いた「終わりにしよう天皇制！代替わり」反対ネットワーク（おわてんねつど）は、一二月七日、千駄ヶ谷区民会館で「終わりにしよう天皇制2019.12.7大集会デモ」をもった。おわてんねつどとしては（たぶん）最後の街頭デモを

伴う集会である。集会のオープニングは、すでにおなじみ「おっちゃんズ」の歌・「元気やめよう」続いて、これも毎回好評の「ノン」。舞台は怪しげなスナック「大嘗亭」。闘争の連続で多忙な中でもよく練られたシナリオと、「玄人はだし」の演技と声優ぶりが

何度も爆笑を誘った。引き続き、「11・9国民祭典」のスライド上映が行われた。構成と解説は桜井大子。各省庁が横並びで後援している奉祝式典なのに、「民間」主催という形式で、グロテスクな神道主義（日本神話の縊解き）が前面化していくこと、他方「嵐」や芸能人が登場して

園遊会に関して「個人情報を報道機関に提供すると案内状に記載し、あらかじめ除せずに検討する必要性を訴え「女系だからさすなわち駄目だ」という議論にはあ

祝祭ムードを盛り上げてもらうことが分析された。

裁判』はもっぱら戦勝国俘虜に対する犯  
罪を裁き、中国人強制連行が一件のみ

「即位・大嘗祭」違憲訴訟、国側に一矢を報いる！

に東京高裁で棄却決定と続き、最高裁も一〇月一日に上告棄却の決定を下してしまった。

休憩を挟んで、リュウセイオーラの舞踏。肉体をエネルギッシュに躍動させてのパフォーマンスに魅せられた。続いて「スライド&トゥーク 代替わり反対行動をふり返る」。前史も含めたおわてんねつとの活動を、司会の京極紀子と、井上森ほかおわてんねつとのメンバーが解説。ずいぶんいろいろな行動を重ねてきたものだ。最後に再び「おっちゃんズ」の歌・「天下た」といえるのだ

朝鮮人強制連行にかかった」と述べ、内七八%が俘虜閨閣実を示した。一九〇九年に視員を募集、三〇〇下の東南アジア諸植民地支配責任による。日本の戦後は植民地支配責任に

内七八%が俘虜関係の罪で処罰された事実を示した。一九四二年に朝鮮で捕虜監視員を募集、三〇〇〇人以上が日本占領下の東南アジア諸国に送られた結果である。日本の戦後はそのスタート時点から植民地支配責任について距離を置いてきた、といえるのだ。

「大嘗祭」違憲訴訟。「代替わり」儀式が進行してしまうなかで裁判も進んできたが、昨年一二月一四日、東京高等裁判所において、予想外のことにつて「原判決破棄」の判決が出た。被告（被控訴人）の国に対して一矢報いたのである。

皇に平和語る資格なし」「天皇制はいらぬいよ」で、集会は終了。

辻子実さん（靖国参拝違憲訴訟の会）は映像を使って朝鮮・台湾に今も一部が残る「最格神社」について説明した。自

おへ必要があるだつて。  
いの訴訟は、現在二つの裁判で成り立つ  
てゐる。一つは「國賀清次裁判」で、二  
つは「國賀清次事件」である。

この集会で示されたもの多様な表現と行動、これこそが一年間の反「代替わり」闘争を支えたエネルギーであつたことは明らかだ。

その後渋谷デモに移り、原宿駅前から渋谷に向けてのデモ。右翼の姿はごくわずか。注目度は高く、宣伝カーからの呼びかけも好評だった。集会とデモの参加者は約一〇〇名。

在のソウル市にあつた巨大な朝鮮神宮は、「侵略神社」にして説明した。八月一五日（光復節）の翌日、白々しくも「神が天に戻った」と称されて廢社となつてゐる。神社参拝奨励などの皇民化政策と植民地支配は同体同一のものであつたといふことに他ならないが、それが靖国神社合祀などの問題に連なることを忘れてはならないだろ。

現在の〈日韓関係〉を天皇制帝  
国の植民地支配責任をふまえて  
考える

一〇一九年一一月一四日、「平成」の代替わりを問う連続講座第Ⅱ期第五回「現在の〈日韓関係〉を天皇制帝國の殖民地支配責任をふまえて考える」が三名の報告者をむかえピープルズ・プラン研究所で開かれた。

天野恵一さん（反天皇制運動連絡会）は天皇大権のひとつ「植民地」に対する大権による朝鮮支配責任について述べ、戦後の憲法学にはそれによる支配システムの政治的意味を歴史的に問い合わせ直す作業が欠落していると指摘した。

容は国賠と差し止め一体であり、本来同一の法廷で審理されなければならないものだった。しかし地裁は、不当にもこの訴訟を、恣意的に「差し止め請求分」と「損害賠償請求分」とに分離し、異なる部に係属させて、別々に審理することにしてしまった。こうして裁判は二つ（第一次訴訟と第二次訴訟の別を入れれば四つ）に分れることになった。

下したのだが、人格権にもとづく請求については判断していなかつたため、手続き上法令違反にあたる、という判断。形式的な理由とはいえ、結果的に、原判決の破棄と一緒に差し戻しを要求していた原告側の訴えが認められることになつたわけで、予想外の結果に狼狽していたに違いない国側代理人の顔を見て、思わず嬉しい気持ちがわいたのも正直なところ。今後、被控訴人（被告）である国は

内海愛子さん（歴史社会学）は「『東京

(岡本和之／市民の意見30の会・東京)

めに一審で裁判をやつねおむすびにならぬし、上扣したひつたじで、ゆっ被上扣人（原告）の逆転敗訴を導いたとすれば、最高裁で弁論を開く必要が生じるところ、これもまた希有な展開になつてくせうである。せひ、注目していただきたまし。

なお、国賠請求分の五回目の口頭弁論は1月5日（水）一回時30分から東京地裁の一〇三号法廷。せひ傍聴して下さり。

（訴訟の会事務局／新孝一）

## ハナダヨシ

12月7日（土）●終わりにしよう天皇制2019（集会報告参照）

12月8日（日）●「表現の不自由展・その後」中止事件の（本質）とは何か

12月10日（火）●胡大平靖国抗議裁判第2回公判

12月14日（土）●多田譜子反権力人権賞受賞式

●「平成」代替わりを問う連続講座 現在の〈日韓関係〉を天皇制帝国の植民地支配責任をふまえて考える（集会報告参照）

12月16日（月）●警視庁機動隊の沖縄への派遣は違法住民訴訟・判決言い渡し

●集会・日本の中国侵略と靖国神社12月18日（水）●アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会解散集会

12月20日（金）●協力と緊張・香港デモにおける非暴力派と直接行動派

12月21日（金）●新国立競技場オープニングセレモニー抗議情宣

●衛香港之戦 2019

12月23日（月）●胡大平靖国抗議裁判判決公判

12月24日（火）●即位大嘗祭違憲訴訟第二次訴訟差し止め請求分控訴審判決言い渡し（集会報告参照）

●オリエンピックねいとわリノク丸の内スタンディング

1月12日（日）●オリエンピックの終わりの始まり

1月13日（月）●日雇全協総決起集会

## 集会情報 INFORMATION

開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時～18時（月・火・休日休館）／WAM女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅）／主催：同館

1月18日（土）●大軍拡を斬る！2020年度防衛予算分析会

13時15分～／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／吉沢弘志・池田五律・杉原宗浩司ほか／主催：大軍拡と基地強化にNO！アクション

2月5日（水）●即位大嘗祭違憲訴訟（国賠請求分）第5回口頭弁論

14時30分～／東京地裁103号法廷（地下鉄霞ヶ関駅）

2月7日（金）●原發被ばく労災あらかぶさん裁判第15回口頭弁論

14時～／東京地裁103号法廷（地下鉄霞ヶ関駅）

●東京オリエンピック パラリハピック2020を問う練馬の会（仮）結成集会

18時40分開場／練馬区厚生文化会館（西武池袋線ほか練馬駅）／齋藤俊郎／連絡先：090-5208-5803（池田）

2月11日（火）●「代替わり」に露出した「天皇神話」を撃つ！2・11反「紀元節」行動

1月25日（土）●「A報告会」ロハンド運動

ム都市1932,1984./2028

13時30分開場／豊島区民セントアーツ（JR池袋駅ほか）／川崎・相模原・墨田・練馬のグループ／主催：差別・排外主義に反対する連絡会

●「平成」代替わりを問う連続講座 象徴天皇制と〈転向〉

16時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／伊藤晃、天野恵／主催：同研究所（03-6424-5748）

2月29日（土）●地域からくる反ヘイト運動

13時30分開場／豊島区民セントアーツ（JR池袋駅ほか）／川崎・相模原・墨田・練馬のグループ／主催：差別・排外主義に反対する連絡会

●「平成」代替わりを問う連続講座 象徴天皇制と〈転向〉

16時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／伊藤晃、天野恵／主催：同研究所（03-6424-5748）

## 多田

●反天連が褒められた。ホントか？ ホントです。誰か教えたつて（木村）

●36年ひすえ。本当に長じいとお疲れさま。（J）褒美うれしい（鶴）

●いただいてあるため重たいです、多田（木村）

●賞としていたいたいた多田さんの『私の敵が見えてきた』。いい本でした（鶴）

●今回も紹さんは作業お休みでした。ほかのあじあるも、いたりこなかつたり。